

科目名	債権管理法務	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	債権者にとって債務者が返済を怠った場合にいかに債権を回収するかは重要なテーマであり、究極には裁判所を利用して強制的に債権回収を図ることができます。その具体的方策としての民事執行手続、民事保全手続について、その基本的事項についてわかりやすく解説します。
	到達目標	民事執行法における債権回収の方法について、基本的事項を理解する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス (授業の進め方、成績の評価基準など)</li> <li>(2) 強制執行の組立て (27-68)</li> <li>(3) 担保執行の組立て (69-78)</li> <li>(4) 不動産執行の構成 (79-83)</li> <li>(5) 不動産競売の開始・差押えの効力 (83-90)</li> <li>(6) 売却条件 (91-98)</li> <li>(7) 売却の準備 (98-108)</li> <li>(8) 売却の実施 (108-118)</li> <li>(9) 二重差押・配当要求 (118-123)</li> <li>(10) 配当 (123-134)</li> <li>(11) 不動産の収益からの債権回収 (143-148)</li> <li>(12) 金銭債権に対する強制執行 (149-192)</li> <li>(13) 執行救済 (241-280)</li> <li>(14) 民事保全の組立て・仮差押え・係争物仮処分・仮地位仮処分 (281-342)</li> <li>(15) まとめ</li> </ul>	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ (授業計画に示した頁数) を事前に読んでおいてください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】 中野貞一郎『民事執行・保全入門』有斐閣 2010年 ISBN:978-4-641-13535-2</p> <p>【参】 裁判所職員総合研修所監修『民事執行実務講義案 (改訂版)』司法協会 2005年</p> <p>【参】 権田修一『債権回収 基本のき [第3版]』商事法務 2011年 ISBN978-4-7857-1924-1</p> <p>【参】 森田 修『債権回収法講義 [第2版]』有斐閣 2011年 ISBN:978-4-641-13600-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉 小レポートの結果 (30%)、期末試験の結果 (70%) を総合評価します。</p>	
備考	<p>六法 (コンパクト六法可) を毎回持参してください。</p> <p>履修条件: 物権法Ⅱ、債権法総論Ⅱを履修していること</p>	